

# きずな

SENBI

2017年4月

第2902号

## 《新年度（第37期）を迎えて》

代表取締役社長 中田 義秀

トランプ政権が発足して3か月が経過しようとしています。

アメリカ絶対主義の方針を今後具体化していく中で、日本に対する経済圧力も一段と強くなってくると予測されています。

一方、国内では好景気なのは一部の企業に限られ、相変わらず多くの企業が不景気感漂う経済環境で苦戦しているのが実情です。

この厳しい経済環境の中を生抜くため、株式会社センビとして新年度（第37期）の抱負を述べさせていただきます。

2017年の所信をきずな（2901号）で述べさせていただいたとおり、新年度は新しい世代のセンビを担う人材育成の年とします。この人材育成には、長年会社の発展に大きく寄与されているベテラン社員の力が不可欠なことは言うまでもなく、全社的な取り組みが必要と考えます。

ベテラン職員と若い職員の融合的な力を持って、新規事業への積極的な開拓・参画などに挑戦していただくことを強く望みます。

その結果が、人材育成となり、さらには業績向上にも繋がると確信しているからです。

そして、新年度は「人事評価制度」に着手していきます。

人事評価制度は、社員皆様の仕事の成果、努力の過程・結果を公正に評価し、その評価を社員処遇に反映させ、会社の業績向上を目的とした制度です。

詳しい内容については、改めて文書でお示ししますが、この制度導入により皆様の業務成果に適切に伝えていきたいと考えています。

さらには創刊号でも触れましたが、お客様との信頼関係の重要性です。

お客様から信頼をいただき良好な関係を継続していくためには、「安全」、「確実」、「丁寧」があってこそ成し得ることを常に心がけて仕事を行ってください。

既に新年度の達成予算は、3月の営業会議で皆様にお示ししております。

私も株式会社センビの更なる発展を成し遂げるため誠心誠意取り組んでいく覚悟でありますので、社員皆様も成果に拘りを持って、最大限の活躍をしていただくことをお願いし、平成29年度（第37期）を迎えてのあいさつとします。





# 人事異動・組織

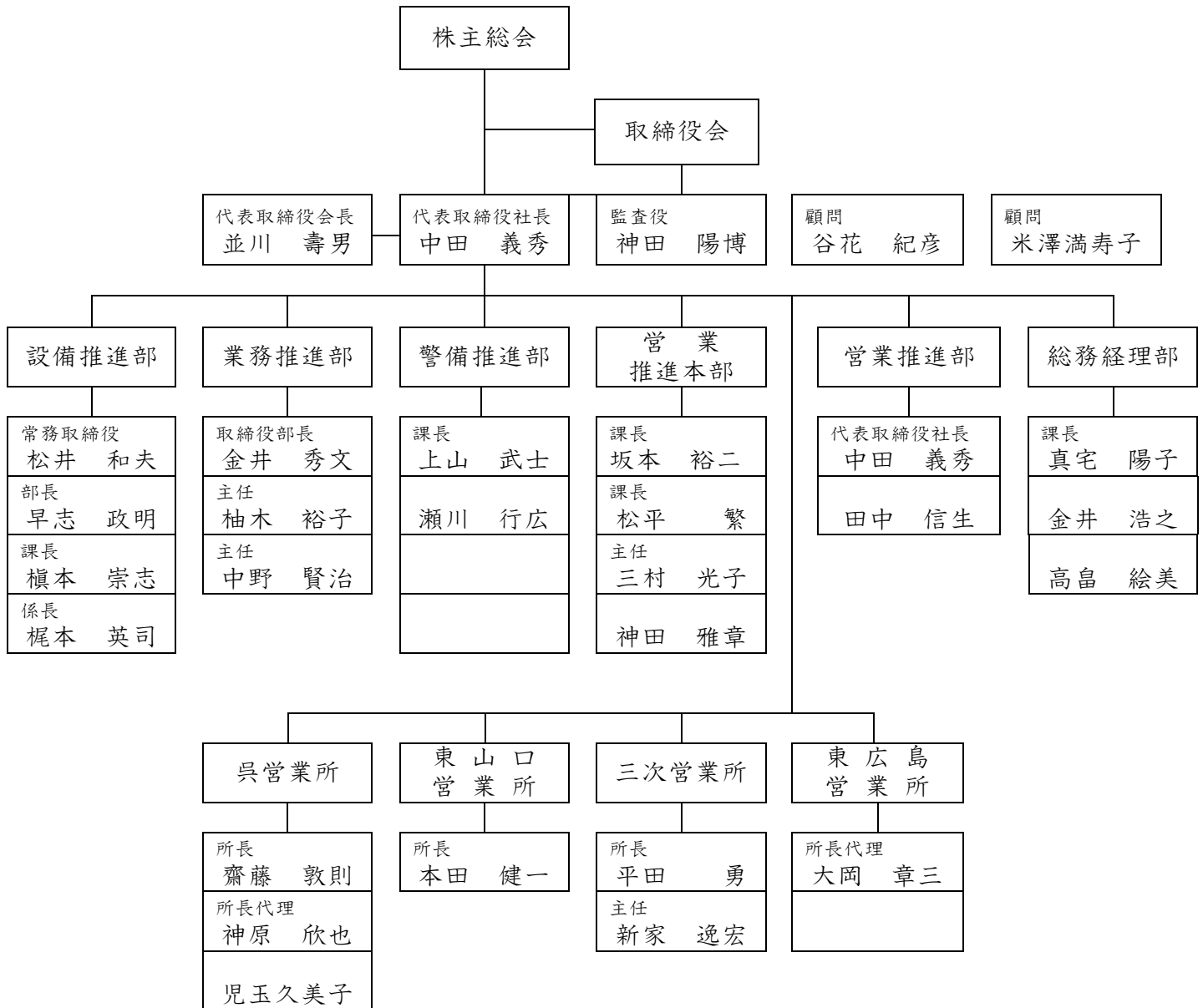
【平成29年4月1日付け人事異動】

(職位)	(氏名)	(旧所属)
営業推進本部課長	松平 繁	東広島営業所所長
総務経理部課長	真宅 陽子	総務経理部係長
呉営業所所長代理	神原 欣也	新規採用
東広島営業所所長代理	大岡 章三	東弘眼営業所
設備推進部係長	梶本 英司	設備推進部主任
営業推進本部	神田 雅章	東広島営業所
総務経理部	金井 浩之	営業推進部



## 株式会社センビ組織図

【平成29年（2017年）4月1日】



# 安全衛生方針



昨年度、会社の安全衛生管理体制を確立するため「安全衛生管理規程」を制定しましたが、この規程に基づき「安全衛生方針」を定めましたのでお知らせします。



## 株式会社センビ 安全衛生方針

# SENBI

安全衛生活動は、企業経営の基盤であり、我が社で働く人及び地域社会の安全・健康に及ぼす影響を最小限となるよう企業活動の中で安全衛生管理を徹底し、自負できる職場を目指します。

- 1 安全衛生関係法令及び社内基準を遵守し、より一層の安全衛生管理に努めます。
- 2 職場の危険有害要因の明確化と対策の優先度を定めるリスクアセスメントを実施し、『災害ゼロ』から『危険ゼロ』の安全で快適な職場づくりを推進します。
- 3 過重労働及びメンタルヘルスによる健康障害を防止するため、衛生管理体制の充実を図り、社員の健康確保対策を推進します。
- 4 全社員とのコミュニケーションを図り、全員参加の安全衛生活動を実行していきます。
- 5 社員教育及び社内広報活動を通じて、安全衛生意識の高揚に努めます。
- 6 安全衛生活動の実行に当たっては、適切な経営資源を投入し、効果的な改善を継続的に実施します。

平成29年4月1日

代表取締役社長 中田義秀

また、この方針に併せて「安全衛生推進計画」も定めていますので、確認してみてください。

保管場所 ➡ 「共通サーバー」 ⇒ 「本社」 ⇒ 「総務部」 ⇒ 「安全衛生管理体制」



## 編集後記

### ＝ 感謝 ＝



今年もサラリーマン川柳の100選が発表されました。  
それにしても、これだけ時機を得た川柳を投稿された方々の  
才能に頭が下がります。

特に夫婦や家族をネタにした川柳は、笑いの中に夫としての地位の危うさが見事に詠われています。

ところで、「60歳のラブレター」という本をご存知でしょうか。

住友信託銀行（現三井住友信託銀行）主催で、長年連れ添った夫婦の気持ちをハガキ1枚にしたためのものを「60歳のラブレター」と題して2000年から毎年募集し、その作品をNHK出版社が編集・出版している本です。

「60歳のラブレター」には、伴侶への万感の想い、一筋縄ではいかない人生を時には諍いをしながら、そして寄り添い、助け合い、共に歩んだ数十年の歴史を経て、普段口に出して言えなかった夫から妻へ、妻から夫への素直な想いが感謝の言葉として綴られています。一字一句の言葉の想いが心に強く響いてきます。

サラリーマン川柳を詠みながら、何故かこの本のことを思い出しました。

それは、サラリーマン川柳と60歳のラブレターには、相通ずるものがあると感じたからです。

サラリーマン川柳も60歳のラブレター同様、夫婦や家族としての強い信頼関係があつての詠であると感じるのです。

夫婦として培われた信頼関係があるからこそ、これだけの詩が生まれたと感じられ、そこに共通点を見出すのです。

この作品に触れるたび、妻や多くの人により自分が助けられていることを感じさせてもらい、「ありがとう」という感謝の言葉を導いてくれます。

もし興味がおありなら、是非「60歳のラブレター」という本を一読していただけたらと思います。



《文責 推進部N.T》